

小児看護学実習

〔2単位 90 時間〕

目的

子どもとその家族の生活を理解し、成長発達を支え、健康の保持・増進ができる看護の基礎的能力を養う。

目標

- 1 対象の成長発達段階をふまえ、適切な看護を実践できる。
- 2 子どもの生活の場を知り、健康状態をふまえて、その子らしい生活を送る援助ができる。
- 3 子どもの尊厳と権利を尊重した援助が理解できる。
- 4 子どもと家族を取り巻く保健医療福祉・教育との連携を知り、多職種間における看護の役割が理解できる。

保育所

目的

健康な子どもの生活と望ましい養育環境を理解し、成長・発達を促す生活支援の方法を学ぶ。

目標

- 1 子どもの生活の場としての保育所の役割・機能を理解できる。
- 2 子どもの身体、精神、運動機能の成長・発達を理解できる。
- 3 子どもの思いに関心を寄せ、発達段階に応じたコミュニケーションをとることができる。
- 4 発達段階に応じた生活支援の方法を理解できる。
- 5 子どもの健全な育成を促すために必要な養育環境を理解できる。

実習時期及び期間

2～3年次 3日間

病院

目的

健康障害のある子どもと家族を理解し、小児看護を実践できる基礎的能力を養う。

目標

- 1 対象の身体的・精神的・社会的な特徴を理解し、健康の保持・増進を目指した援助ができる
 - 1) 対象の成長発達の過程および現在の成長発達段階を理解できる。
 - 2) 健康障害や入院・治療が対象の生活へ及ぼす影響を理解できる。
 - 3) 対象の看護の方向性についてアセスメントできる。

- 4) 対象の日々の状態を判断し、健康の保持・増進に向けた計画、成長発達を促す計画を立案できる。
- 5) 対象の反応にあわせた援助を安全かつ安楽に実施できる。
- 6) 対象の状態や反応を振り返り、実施した援助を考察できる。
- 2 権利擁護の必要性を理解し、子どもを尊重した看護が理解できる。
 - 1) 実践を振り返り、子どもの力を引き出すかわりが理解できる。
 - 2) 実習体験をもとに子どもを尊重した看護の必要性が理解できる。
- 3 対象とのコミュニケーションが図れ、援助関係を形成できる。
 - 1) 対象のおかれている状況や反応の意味を理解できる。
 - 2) 対象の成長発達段階や健康状態、反応にあわせたコミュニケーションをとることができる。

実習時期及び期間

2～3年次 8日間